

平成27年度第1回青梅市行財政改革推進委員会議事概要

1 日時

平成27年5月11日（月） 午前8時58分から午前11時51分

2 場所

青梅市役所 議会棟3階 第3委員会室

3 出席者

[出席委員]

榎本晶夫委員長	押切重洋委員	嶋崎雄幸委員
水村美穂子委員	菊池一夫委員	奥住尚弘委員
井上忠男委員	増田擴委員	中村充委員

[出席青梅市職員]

竹内青梅市長以下13名

4 議事概要

(1) 市長あいさつ

(2) 委員長あいさつ

(3) 報告事項

ア 平成27年度青梅市当初予算の概要について

【財政課長説明】

イ まち・ひと・しごと創生総合戦略について

【企画政策課長説明】

ウ 公共施設再編計画について

【行政管理課長説明】

エ 文化課所管施設の使用料等の適正化について

【 ” ” 】

(4) その他

ア 委員の改選について

【行政管理課長説明】

イ その他

5 主な質疑・意見等

○平成27年度青梅市当初予算の概要について

《質疑》

- [Q] 衛生費にリサイクル施設の延命化やし尿処理施設の長寿命化とあるが、その施設以外にもごみ焼却を行う西多摩衛生組合の施設がありますが、何か長寿命化・延命化の計画があるのか。
- [A] 西多摩衛生組合につきましても改修に着手して延命化を図っている。
- [Q] 各種委員会や協議会が76あるが、効率化や削減は出来ないか。
- [A] 法令に基づく委員会等は必須であります。それ以外のものについては、順次見直しをしていく。
- [Q] ボッパルト市との姉妹都市提携50周年記念事業に1,700万円程度、戦後70周年記念事業に550万円程度の予算がついているがお金をかけ過ぎではないか。
- [A] ボッパルト市との姉妹都市提携50周年記念事業については、親善使節団の参加者負担金として900万円程度の歳入を見込んでいるので歳出をそのまま市で負担している訳ではない。また、戦後70周年記念事業については、市長会の補助金がありますので殆ど市の負担は無い。

《意見・要望》

・各事業の内容について、市と市民の感覚に差があるので、その差を埋める方法を考えて貰いたい。

○まち・ひと・しごと創生総合戦略について

《質疑》

- [Q] 東京都との整合性と青梅市の位置付けについて、どう考えているのか。
- [A] 東京都も1つの自治体として総合戦略を策定する方針を立てている。東京都と60市区町村が情報交換を行う会議が設置されており、その中ですり合わせや情報交換を行い、各地域の特性に応じて総合戦略を策定していく。
- [Q] 東京都はこれから策定するという中で、青梅市が12月までに策定をしてしまうのはどうなのか。
- [A] 東京都は10月を目途に策定をするようです。国の人口ビジョンの将来展望を実現するための総合戦略ということで、内閣府、国からは策定を今年度中にという通知もあるが、青梅市では総合長期計画の将来人口の推計あるいは国や民間機関による地域別の将来人口推計などを良く点検、分析を行い、年内の策定を考えている。
- [Q] 総合戦略の策定段階から民間人を加えてはどうか。
- [A] 策定段階から産業界、行政機関、教育機関、金融機関、労働団体、言論すなわちメディアを主なメンバーとする青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定懇談会に入っただき、意見を聞いていく。
- [Q] 日の出町における15歳以下の子供がいる家庭支援のように具体的な政策がつくれ

ないか。

[A] 日の出町については、ごみの処分場があり特別な財源があるということ、また、日の出町の人口規模は青梅と比べるとかなり小さいので財政に余裕があることで出来る政策と考えます。

[Q] 自治会離れによって絆の面で非常に重要な欠落が出てくると思うが、自治会離れを少なくしようというような施策はあるか。

[A] 更に財政的なバックアップをしていかなければいけないと考えている。また、災害等の対応において自治会が中心になるということ等を相互的に良く話をして加入してもらおうような取り組みをしている。更に自治会とは別に若い方が集まる組織が結構あるので、そちらも取り入れた形で地域の絆につなげていけないかと検討している。

《意見・要望》

- ・若い夫婦が青梅に住んでみようと思う時に着目するのは、子育てしやすい環境づくりだと思う。
- ・自然環境やスポーツ施設、公園など青梅は非常に良い環境が揃っているので、人口を呼び込むには、有利な条件を活かしていかにか魅力をつくっていくかにかかっていると思う。
- ・観光客等をターゲットにして青梅市のイメージアップをPRすることも大事だと思う。
- ・青梅は高齢者中心のまちというイメージがやはり強いと思うので、若い方がもっと来れるまちづくりということが重要になると思う。
- ・御岳山の交通アクセスが非常に悪いので、例えば帰りは河辺駅までの直行便をつくり、梅の湯とセット料金にすれば商業と観光の一体化で河辺も活性化すると思う。
- ・現在の高齢者の実態にあった自然を活かした高齢者向けのハイキングコースや散歩コースをもっとつくり、またそのコースのステップアップ式歩数マップのようなものもつくり、都心の方等にPRすると良いと思う。
- ・御岳山の観光について、バスを降りてからケーブルカーまでの道がかなりきついので、何か良い手段はないのか。お年寄りの観光という意味ではネックになっていると思う。

○公共施設再編計画について

《質疑》

[Q] 人口1人当たりの公共施設面積という捉え方ですが、公共施設面積1㎡当たりの維持管理費や人口1人当たりの負担金というような数値はないのか。また、その数値は西多摩の他自治体との比較がされているのか。

[A] 平成25年度に作成した「青梅市公共施設白書」の中に、各施設の利用状況並びに1人当たりのコストを記載している。また、他自治体26市との比較はしていない。

[Q] 地域保健福祉センターについて、補助金をもらってから一定年数が経てば用途のしぼりは外してもいいのでは。また、条例でそれをしばっているのであれば、条例を改正するべきではないか。

[A] 国庫補助などを受けていると耐用年数40年間は用途廃止が出来ないということが

ありましたが、現在国交省の関係のしぼりは10年程度と緩くなっているので、公共施設再編と併せて検討していく。

- [Q] 練習施設等を兼ね備えた芸術文化・音楽ホールのようなものをつくる構想はあるか。
- [A] 第6次青梅市総合長期計画の基本計画の中に新たな文化芸術活動の拠点施設となり、様々な機能を有する複合施設としての市民ホールの建設を検討するなど文化芸術施設全体のあり方を再構築しますという位置づけをしているので、公共施設再編と併せて検討していく。
- [Q] 公共施設の廃止・統合をしたうえで職員数を何人減らせるかということも検討しているか。
- [A] 各公共施設の維持管理に職員が何人必要かということを出しているなので、その施設が減るということであれば連動して職員も減らしていくと考えている。
- [Q] 公共施設が廃止・統合となった場合に職員を減らすということだが、具体的にどのように減らすのか。
- [A] 採用計画の採用予定人数を減らしながら、指定管理による民間委託や施設統廃合に伴う減員に対応していきたいと考えている。
- [Q] このテーマ自体が公共施設の維持管理費等の削減ということでまず施設を無くすことを主眼にたてられているような気がするが、公共施設を住み良いまちづくりの1つの要素とした場合どう考えているか。
- [A] 人口の減少と市民ニーズの多様化ということの中で現状に合わせていく。また、全体的な傾向として働く人口が減り市税も減る中では、ある程度の再編による減少は止むを得ないと考えている。

《意見・要望》

- ・施設の廃止や統合あるいは運営を民間に任せるなどの運営方法まで含めて検討しているようなので、是非この線で進めてもらいたい。
- ・青梅のように広範囲に公共施設が点在している場合は、例えば100円バスのようなものを走らせアクセスの問題を改善し利用促進を図るということも検討したほうが良いと思う。
- ・再編の進め方については、財政面を考慮しながらきめ細かな展開をお願いしたい。
- ・青梅市は文化活動の施設が十分ではないので、近隣自治体へ行って催し物を行っている市内の団体がある。
- ・居住人口だけでなく商業人口の推移についても把握して、市内の活性化ということを意識していかないといけないと思う。

(注) 商業人口：商業地別買物人口のこと。小売中心地性を示すデータとして算出される。

商業人口＝当該市区町村の年間小売販売額÷(都道府県年間小売業販売額／都道府県行政人口)

- ・公共施設の統廃合等により施設が減り、それに伴って職員も減らすということを目標にも取り入れた方が良いと思う。

○文化課所管施設の使用料等の適正化について

《質疑》

- [Q] 原価計算シートはいつ現在の数字なのか。
- [A] 平成25年度の実績に基づいた数字となっている。
- [Q] 美術館観覧料原価計算シートの中で、正規職員投入人員が1.5人、臨時職員投入人員が1人とあるが、実際の職員数と違うと思う。また、市民会館施設使用料原価計算シートについても人員数が違うと思う。
- [A] 投入人員に関する人件費という考え方のもとに、利用の実態に関する業務の閑散期や繁忙期を平均しての投入人件費ということでこのような数値を人員として入れている。
- [Q] 市民会館、美術館は指定管理者に委託している部分はあるか。
- [A] 現在は指定管理者に委託している部分はない。
- [Q] 美術館の収入と経費についてと市民会館の施設使用料と備品の使用料の総合計というのはどう考えるのか。また、市民会館の平成25年度の年間収入はどのくらいあったのか。
- [A] 青梅市公共施設白書の中に若干古いデータになりますが数字があります。美術館の場合、まず収入として観覧料、美術館使用料、図書販売等として年間239万2千円。それに対して、経費の総合計が6,527万7千円。6,527万7千円の内訳は、建物の維持管理費関係で3,219万3千円、事業・運営経費関係で3,308万4千円。また、市民会館の場合、収入が会館使用料と劇場入場料として1,681万円。それに対して、経費の総合計が1億968万5千円。1億968万5千円の内訳は、建物の維持管理費関係で6,625万9千円、事業・運営経費関係で4,342万6千円。
- [Q] 市民会館の場合、収入に備品等の使用料は含まれているか。
- [A] そこまで細かいところは記載がないが、それも全部含んだ総合計となる。
- [Q] 実際に具体的な料金を決める時にはいろいろな要素を考えて判断すると思うが、法令等の減免規定がなければお客様が入るかどうかがや他の美術館との比較、社会教育的な意味でどうかなどを考慮して判断するのか。
- [A] 公共の美術館が経済性だけを考慮して料金を設定するのではなく、広く市民の方に利用していただく中での金額の妥当性というものを考慮しなければならない。よって、赤字は覚悟で社会教育という側面の中でやっていることと経済性との兼ね合いは、最終的には議会で承認をいただいて料金を設定していくということであると考えている。
- [Q] 原価計算シートの市民会館の場合は、貸出面積を足しても総面積に足りない。
- [A] 面積の計算ですが、共通で使用する部分については計算面積から外している。
- [Q] 市民会館のような場合は貸し出す為だけに建てられているようなものですから、計算するのであればこの7千万円の原価を残らず各貸出区分に一旦は配分してから検討すべきではないか。
- [A] いずれにしても消費税が10%に上がる際には再度見直しをして再計算をするので、

この原価計算シートの仕組みそのものについても再度検証をしていきたい。

《意見・要望》

- ・美術館には女性のお手洗いが3つしかない。また内2つが和式であり、バリアフリーの手すり等も無いという設備の問題がある。
- ・美術館での観覧料は65歳以上が無料となっているが、その年齢を若干上げれば有料入館者数が自然に増えるのでは。
- ・美術館の観覧料金設定について、例えば大人2人と子供3人で来館した場合には割引サービスがあるなどの工夫があっても良いと思う。
- ・市民会館の場合、管理方法が細かくていろいろと書類が必要になる。例えば黒板につけるマグネットとかドアのストッパーなども申請書で借用申請をしなければならない。また、机や椅子も別途料金を払う。ホールを借りても運営上は、別の費用がたくさんかかっている。従って、それらを含めたホールの使用料に変えると細かい管理が不必要になりその投入人員も減ってくると思う。
- ・受益者負担と公費負担のあり方に関する指針の中でもあるように公益性、私益性、必需性、選択性の観点から負担割合を決めているが、各施設はどういう負担割合にしているのかという結論がどこにも整理されていない。それこそ公表して意見を求めるべき。

○その他（質疑・意見）

《質疑》

- [Q] ふるさと納税がありますが、青梅の場合は人数と金額はどうなっていますか。
- [A] 青梅市民が他市に寄付をしている実績ですが、平成25年度は100件で減税分が190万9千円。寄付金の申告は850万円。東日本大震災の影響ですと平成24年度は672件あり、減税分が1千万円程度、寄付金額は4,700万円。
- [Q] ふるさと納税を増やすために「梅の里再生に使います」とアピールしては。
- [A] 1年前から梅の里再生の基金をつくり、アピールを開始した。

《意見・要望》

- ・自治会に入っても具体的なメリットが無いという意見が多く、加入率が上がらない。
- ・自治会会員が特典を得られる事業を東京都の補助金を利用して行っているが、その補助金は同じ分野での利用が出来ないので青梅市の方から特段の配慮があればありがたい。
- ・自治会に対して補助金を出しているのだから、市の行政として自治会で最低限やって貰いたいことを明確に出すべき。
- ・現在自治会で頭が痛いのが、1人暮らしの高齢者に対する手助けリストの取り扱い。
- ・自治会は市民と行政の間にいるので市がやるべきことはおろしていただいて、また、住民の意見もあげていただいて有効に使っていただいた方が良いと思う。